

学位論文の要旨

Effectiveness of anger-focused emotional management training in
reducing aggression among nurses

(怒りに焦点化した感情マネジメント教育による看護師の攻撃性低減効果)

April, 2023
(2023年4月)

Yuriko Tanabe
田辺 有理子

Psychiatry

Yokohama City University Graduate School of Medicine
横浜市立大学 大学院医学研究科 医科学専攻 精神医学

(Doctral Supervisor : Akitoyo Hishimoto, Professor)
(指導教員 : 菱本 明豊 教授)

学位論文の要旨

Effectiveness of anger-focused emotional management training in reducing aggression among nurses

(怒りに焦点化した感情マネジメント教育による看護師の攻撃性低減効果)

<https://doi.org/10.1002/nop2.1367>

序論

医療者には、感情のマネジメントが不可欠である。不適切な感情表出はチームダイナミクスやコミュニケーションに悪影響を及ぼし、それが患者ケアに反映する (Rosenstein and Naylor, 2012)。フラストレーションや困難な状況に直面すると怒りが生じ (Dollard et al., 1939)、攻撃的な行動を引き起こす (Novaco, 2007)。攻撃性は虐待や職場内のハラスメント、バーンアウトのリスクとなる (Molina-Praena et al., 2018)。攻撃性を低減するために、怒りなどの感情マネジメントのコンピテンシーを開発する教育プログラムの需要が高まっている (Prado-Gascó et al., 2019)。しかし、わが国では医療者向けの教育はまだ普及していない。そこで、攻撃性に先行する怒りに着目して認知行動療法をベースに開発されたアンガーマネジメント (Novaco, 1975; 1976) を用いて、医療者向けの教育プログラムを開発した。

本研究では、看護師を対象として怒りに焦点を当てた感情マネジメントに関する 5 時間の教育プログラムを実施し、その効果を検証した。

研究方法

本研究は、2018 年 6 月から 2020 年 3 月に実施した。教育プログラムは感情に関する基礎知識、自分の怒りの傾向、衝動への対処、ストレスコーピング、怒りの原因となる価値観への気づき、アサーティブコミュニケーションとし、怒りのマネジメントの内容は、日本アンガーマネジメント協会が開発したプログラムに基づき看護師向けに改良した。1 日 5 時間、講義と演習を組み合わせたグループ教育で構成した。受講者に対し、実施前、実施後、3 か月後に Buss-Perry 攻撃性尺度日本語版 (BAQ) を測定した。回帰分析により、性別によるプログラムの効果を評価した。収集したデータに個人を特定できる情報は含まず、任意の番号で 3 回の調査を照合した。参加者に研究趣旨および手順について説明し、書面による同意を得た。本研究は、横浜市立大学人を対象とする生命科学・医学系研究倫理委員会の承認を得た (#A180500006)。

結果

分析対象は 283 名で、男性が 87 名 (30.7%)、女性が 196 名 (69.3%) であった。年齢は平均 42.65 歳 (SD=9.55, 範囲=23-68) であった。臨床経験年数は平均 17.92 年 (SD = 10.02, 範囲 = 1-43) であった。3 か月後の調査では 213 名の回答を得た。

教育実施前の BAQ をベースラインとし、実施前後の合計点の差は -2.827 ポイント、3 か月後では -1.602 ポイントで攻撃性が低減した。3 時点すべてにおいて、男性の合計点は女性よりも高かった ($p = .016$)。合計点の交互作用の分析では、3 か月後に女性は微増し、男性は低下した ($p = .057$)。

下位尺度の分析では、怒りおよび敵意の得点が実施後に有意に低下し、その効果は合計点と同様に 3 か月後も持続していた。実施後の敵意は、実施前 (推定係数: -0.668, 95%CI: -1.046 - -0.293; $p = .001$) および 3 か月後 (-0.579; -0.987 - -0.172; .005) に比べ有意に低く、実施前および 3 か月後では男女間で有意差があった ($p = .047$)。実施前は女性より男性の方がやや高く、3 か月では男性の方が低かった。身体的攻撃性は、実施前に比べ、実施後は -1.199 ポイント (95%CI: -1.678 - -0.719; $p < .001$) だったが、3 か月後は -0.207 ポイント (95%CI: -0.723 - -0.309; $p < .001$) となり、実施前と 3 か月後には大きな差がなかった。男性の身体的攻撃性は、3 時点とも女性よりも高かった ($p < .001$)。他の交互作用項目に有意差はなかった。

考察

怒りに焦点を当てた感情マネジメント教育を実施して攻撃性を測定したところ、合計点および下位尺度の怒りと敵意は、実施前と比較して実施後に有意に低下し、その効果は 3 か月まで維持した。

看護師向けの教育では、攻撃性の改善 (Farahani and Ebadie Zare, 2018) が報告されており、本結果と一致する。効果の持続期間については、4 週間の継続が報告されている (Turan, 2021; Yun and Yoo, 2021)。本研究では、3 か月の時点でも効果が継続していることが示された。

身体的攻撃性は、実施後に低下したが 3 か月後には上昇し、教育の有意な効果は認められなかった。教育が攻撃性の発現を改善する動機付けとなるが、日常臨床に戻ると元の行動パターンに戻ってしまうと推察され、長期にわたって効果を維持する必要がある。効果を維持するためには、繰り返しの教育が必要である (Kwasnicka et al., 2016)。先行研究では、8 週間のアンガーマネジメントプログラムは、心理的回復力と看護師の感情状態に影響を与え (Turan, 2020)、ストレスマネジメントの複数セッションは看護の質を向上させた (Pahlavanzadeh et al., 2016)。本プログラムは 5 時間 1 日と先行研究より

も短時間の設定であったが、怒りや敵意のレベルに効果を示した。他のプログラムと比較して効率的といえるが、3 か月後の身体的攻撃性や言語的攻撃性についての効果が課題であり、反復学習を取り入れた継続教育プログラムの改良が必要である。

男性は女性よりも身体的攻撃性が高いことが示されており(Ando et al., 1999), 本結果も同様であった。敵意は実施前後で男女差はなかったが、3 か月後では女性に変化がなく男性は低下し、有意差が認められた。敵意は性差がないことが報告されており(Gerevich et al., 2007), 本結果と一致した。さらに、本研究で3 か月後に有意差があったことは新しい知見である。

本研究は、JSPS 科研費 JP17K12164 の助成を受けた。

引用文献

Ando, A., Soga, S., Yamasaki, K., Shimai, S., Shimada, H., Utsuki, N., Oashi, O. and Sakai, A. (1999), Development of the Japanese version of the Buss-Perry Aggression Questionnaire(BAQ), *The Japanese journal of psychology*, 70, 384-392.

Dollard, J., Miller, N. E., Doob, L. W., Mowrer, O. H. and Sears, R. R. (1939), *Frustration and Aggression*, Yale University Press.

Farahani, M. and Ebadie Zare, S. (2018), Effectiveness of Cognitive-Behavioral Anger Management Training on Aggression and Job Satisfaction on Nurses Working in Psychiatric Hospital, *Zahedan Journal of Research in Medical Sciences*, 20.

Gerevich, J., Bácskai, E. and Czobor, P. (2007), The generalizability of the Buss-Perry Aggression Questionnaire, *International Journal of Methods in Psychiatric Research*, 16, 124-136.

Kwasnicka, D., Dombrowski, S. U., White, M. and Sniehotka, F. (2016), Theoretical explanations for maintenance of behaviour change: a systematic review of behaviour theories, *Health Psychology Review*, 10, 277-296.

- Molina-Praena, J., Ramirez-Baena, L., Gómez-Urquiza, J. L., Cañadas, G. R., De la Fuente, E. I. and Cañadas-De la Fuente, G. A. (2018), Levels of Burnout and Risk Factors in Medical Area Nurses: A Meta-Analytic Study, *Int J Environ Res Public Health*, 15.
- Novaco, R. W. (1975), *Anger Control: The Development and Evaluation of an Experimental Treatment*, Lexington Books.
- Novaco, R. W. (1976), The functions and regulation of the arousal of anger, *American Journal of Psychiatry*, 133, 1124-1128.
- Novaco, R. W. (2007), "Anger dysregulation," Timothy A. Cavell, K. T. M. (ed) *Anger, aggression and interventions for interpersonal violence*, 1, Lawrence Erlbaum Associates Publishers, Washington, DC, pp.3-54.
- Pahlavanzadeh, S., Asgari, Z. and Alimohammadi, N. (2016), Effects of stress management program on the quality of nursing care and intensive care unit nurses, *Iran J Nurs Midwifery Res*, 21, 213-218.
- Prado-Gascó, V. J., Giménez-Espert, M. D. C. and Valero-Moreno, S. (2019), The influence of nurse education and training on communication, emotional intelligence, and empathy, *Revista da Escola de Enfermagem da USP*, 53.
- Rosenstein, A. H. and Naylor, B. (2012), Incidence and Impact of Physician and Nurse Disruptive Behaviors in the Emergency Department, *The Journal of Emergency Medicine*, 43, 139-148.
- Turan, N. (2020), An investigation of the effects of an anger management psychoeducation programme on psychological resilience and affect of intensive care nurses, *Intensive and Critical Care Nursing*, 102915.

Turan, N. (2021), An investigation of the effects of an anger management psychoeducation programme on psychological resilience and affect of intensive care nurses, *Intensive and Critical Care Nursing*, 62, 102915.

Yun, K. and Yoo, Y.-S. (2021), Effects of the Anger Management Program for Nurses, *Asian Nursing Research*, 15, 247-254.

論文目録

I 主論文

Effectiveness of anger-focused emotional management training in reducing aggression among nurses

Tanabe, Y., Asami, T., Yoshimi, A., Abe, K., Saigusa, Y., Hayakawa, M., Fujita, J., Ide, K., Suda, A., & Hishimoto, A.

Nursing open, 10(2), 998–1006. 2023 <https://doi.org/10.1002/nop2.1367>

II 副論文

なし

III 参考論文

- 1 イライラとうまく付き合う介護職になる！アンガーマネジメントのすすめ
田辺有理子
第1版，中央法規出版，東京，1-158，2016
- 2 イライラと賢くつきあい活気ある職場をつくる介護リーダーのためのアンガーマネジメント活用法
田辺有理子
第1版，第一法規，東京，1-160，2017
- 3 医療安全管理者のためのアンガーマネジメント第1回 スタッフがいつでも報告・相談できる医療安全管理者になろう
田辺有理子
病院安全教育，第4巻第5号，18-21，2017
- 4 医療安全管理者のためのアンガーマネジメント第2回 怒り方の癖
田辺有理子
病院安全教育，第4巻第6号，82-85，2017

- 5 医療安全管理者のためのアンガーマネジメント第3回 怒りとその背後の感情に対応しよう
田辺有理子
病院安全教育, 第5巻第1号, 91-94, 2017

- 6 医療安全管理者のためのアンガーマネジメント第4回 多様な価値観を認めてチームワークを向上させよう
田辺有理子
病院安全教育, 第5巻第2号, 106-109, 2017

- 7 医療機関のストレスチェック 制度を現場で生かすために 看護職のストレスケア ストレスとは何かを知り「気づき」を確かに得られる環境を整える
田辺有理子
看護, 第69巻第7号, 79-82, 2017

- 8 怒りの感情と上手に付き合うアンガーマネジメント 怒りの感情を理解する
田辺有理子
看護, 第69巻第12号, 70-75, 2017

- 9 ナースのためのアンガーマネジメント 怒りに支配されない自分をつくる7つの視点
田辺有理子
第1版, メヂカルフレンド社, 東京, 1-158, 2018

- 10 怒りに支配されない自分をつくるアンガーマネジメント
田辺有理子
看護と情報, 第26巻, 53-57, 2019

- 11 医療現場における暴力や興奮と向き合う職場におけるハラスメントへの対応
田辺有理子
精神科, 第37巻第4号, 381-385, 2020

- 12 作業療法を深める アンガーマネジメント 怒りという感情を学ぶ
田辺有理子
作業療法ジャーナル, 第 54 巻第 7 号 678-682, 2020

- 13 作業療法を深める アンガーマネジメント 自分を知って上手に怒る
田辺有理子
作業療法ジャーナル, 第 54 巻第 9 号, 1017-1021, 2020

- 14 急増する“違和感スタッフ”への教育的支援と部署へのケア 違和感スタッフとの Win-Win 交流術
田辺有理子
ナースマネジャー, 第 22 巻第 8 号, 15-19, 2020

- 15 「コロナ」から自分を守る!看護師が実践できるメンタルヘルスケア Part2 場面別看護師が実践できるメンタルヘルスケア 組織に守ってもらえず管理者に対する怒りが収まらない場面
田辺有理子
看護技術, 第 67 巻第 1 号, 29-33, 2021

- 16 怒った人に振り回されない自分をつくるナースのためのアンガーマネジメント②
田辺有理子
第 1 版, メヂカルフレンド社, 東京, 1-158, 2022

- 17 イライラ・怒りと上手に付き合うアンガーマネジメント介護現場の対人ストレス解消法
田辺有理子
おはよう 21, 第 33 巻第 10 号, 4-23, 2022

- 18 臨床現場とストレス 看護師のストレスケアに活用するアンガーマネジメント
田辺有理子
ストレス科学, 第 36 巻第 4 号, 247-255, 2022